

令和5年度 第73次 印旛地区教育研究会 安全教育分科会(紙上提案資料)

1. 研究主題

児童生徒・教員の安全に関する知識の定着の実践

2. 主題設定の理由

本校は児童数が607人おり、学校の近隣には駅や市役所が隣接されている一方で、周辺には畑があり、歩道の整備が進んでいない箇所が多くある。また、交通量が多いもののガードレールがないような通学路もあり、登下校時にはひやひやするような場面も少なくない。また、市内では数年前に死亡事故が発生したこともある。しかし、そのような状況であるにも関わらず、登下校中の様子を見ると並列歩行をしていたり何も警戒せず白線をはみ出して歩いている児童が多く見られる。また、交通安全だけでなく、教室での過ごし方や廊下や階段での歩き方、校内の安全に対しても意識が向けられていない実態である。

そこで、「学校安全の手引き」の前文より、「児童生徒が生涯にわたって健康・安全で幸福な生活を送るための基礎を培うとともに、進んで安全で安心な社会づくりに参加し貢献できるような資質・能力を育てる。」を受けて、学区内での児童生徒の安全に関わる取り組みではなく、「生涯にわたって」安全・安心に暮らしていく能力を育てていく必要性を感じ、本主題を設定した。

3. 研究の内容

○児童への知識の発信

【災害安全】

- ・地震を想定した避難訓練での1次避難において、ダンゴムシのポーズ(頭を守る姿勢)を伝えた。その後の学級指導では全学級で、「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」の、3つの「こない場所」を伝えた。
- ・通常の避難訓練に加えて、ワンポイント避難訓練も実施した。学校内のどこにいても、自分の身を守る方法を覚えられる機会を設けた。

【生活安全】

- ・不審者対応訓練では、名札着用の意義(何かがあったとき、いつ・どの先生でもその子の名前やクラスがわかる)や、不審者が諦めること(諦める距離6m、諦める20mダッシュ、諦めるバリケード)等を集会及び学級で伝えた。
- ・6月の全校集会(meet)では、梅雨の時期における廊下歩行について、ペンギンの歩き方をすると滑らずに安全に歩けることを伝えた。図を示しながら伝えたため、特に低学年児童によく伝わった。

<水泳指導>

- ・プール開きの際、水難事故で亡くなった人の数を発信した。また、その人数を着衣泳の際にも伝えた。安全なプール学習についてや、水辺での事故への対処方法を主体的に考えられた。
- ・着衣泳では、浮く練習だけでなく、助ける側の体験も行った。ペットボトルは投げ渡すだけでなく、ひもを括り付けることで救助に使えることを伝えた。また、泳ぎに自信のある人でも、道具を使わず助けることは危険であることも併せて伝えた。

【交通安全】

- ・警察の方に講師依頼をし、不審者の対応について防犯教室や、交通安全教室を行った。その後、給食時の校内放送にて、安全な登下校の仕方と呼び掛けた。体験したことをもとに、避難の仕方や安全な登下校について再度伝えた。
- ・全校集会において、登下校の安全について、飛び出しの危険性を訴える動画(ドライブレコーダー)を見せた。どのような行動が危険なのか、安全な歩き方とは何かを児童が主体的に考えられた。
- ・終業式において、「㊦㊧㊨㊩」(自転車の乗り方、横断する際の「止まる」「見る」「待つ」)を全校に伝えた。
- ・終業式において「㊪㊫㊬」(火に注意、水に注意、交通事故に注意)を全校に伝えた。そこに関連付けて車歩呼のイラストを用いて伝えたため、その後の学級指導でもすらすら言える児童が多かった。

○教員への知識の発信

【職員研修】

- ・不審者対応訓練では、ホイッスルのみで応援を呼ぶのではなく、状況によっては大声を出して救援を求めすることも必要であること、また、不審者への対抗手段として、さすまたや箒以外にも殺虫剤などのスプレーが有効であることを伝えた。
- ・1学期の不審者対応訓練の反省を生かし、職員だけの対応訓練を夏季研修として行った。事例を挙げながら実施し、改善点を話し合った。2学期以降は、放課後の時間を使って何度も訓練を行う予定である。

4. 成果と課題

【成果】

- ・児童生徒に情報を発信する機会を増やすことで、職員との共通理解を図りやすくなった。
- ・合言葉を用いて伝えることで、簡潔で分かりやすく伝えることができた。また、合言葉を確認することで何が良くてきたか、どんな行為が危険なのか等を振り返りやすくなった。
- ・繰り返し避難訓練を行っていくことで、児童の安全に対する意識が高まっているのが分かった。また、今いる場所にあった避難の仕方を身に着け、安全に素早く非難することができるようになった。

【課題】

- ・避難訓練では、児童によっては適切な避難方法を身に着けられていないこともわかった。特別教室やトイレからの避難を考える機会を増やしていきたい。
- ・不審者対応では、職員間でまだ対応の仕方が統一・浸透できていない。今後も研修を行い周知していきたい。二学期からは、定期的に不審者対応訓練の時間を設けていく予定である。
- ・登下校時の安全については、学校から離れると危険な横断をする児童が少なからずいる。安全への意識を一人一人がより高められるように今後も知識の発信を継続していきたい。